

レジュメ；令和5年5月20日（土）

家庭教育で求められる善悪のしつけ

～日本の家庭教育を巡る課題～

山 田 秀 樹

はじめに

1 家庭教育の在り方

（1）しつけの概念

教育の理念～知的であるか否か、非可視的なものを理解する

（2）家庭教育の価値

家庭養育の責任論

・ 現実のしつけ

・ すべては家庭から

（3）問題・課題が表面化しない

なぜ問題が表面化しないのか

（4）少年の非行事案、犯罪の環境など

2 結婚観

(1) 夫婦の在り方

夫婦は同居し、互いに協力しながら扶助する～（民法第752条）

(2) 子どもへの意識

～共通の理想のために努力する場を持つこと

・子どもの意思を確立するための訓練の必要性（日本の教育制度の落とし穴）

・自分の子を自分の持ち物とする誤った認識

例；日本～敵が来た時日本の母親はわが子を抱いて敵と戦う～わが子の死を覚悟

・ヨーロッパ～母親はわが子を後ろに隠して敵と戦う～親のない子は社会が育てるとする社会構造

(3) 放任主義の取り違え

3 結婚と子育ての責任

(1) 双方の関わり方をどのようにしていくのか

(2) 経済的支えをどう考えるのか

(3) 父として母としての子どもへの愛

(4) 問題の所在

総じて、理性的な愛で育てることで初めて子は幸福でいられ、かつ社会への還元が可能になる。

4 子どもの教育についてのシステム

(1) 国の体制など

(2) 公的機関に依存する姿勢

(3) 学校登校時の見守りなどについての欧米との違い

むすびに